

Leader



2025年3月期 第2四半期 決算説明会資料 リーダー電子（6867）

2024年11月7日

<https://www.leader.co.jp/>

会社概要並びに事業概要

<https://www.leader.co.jp/>

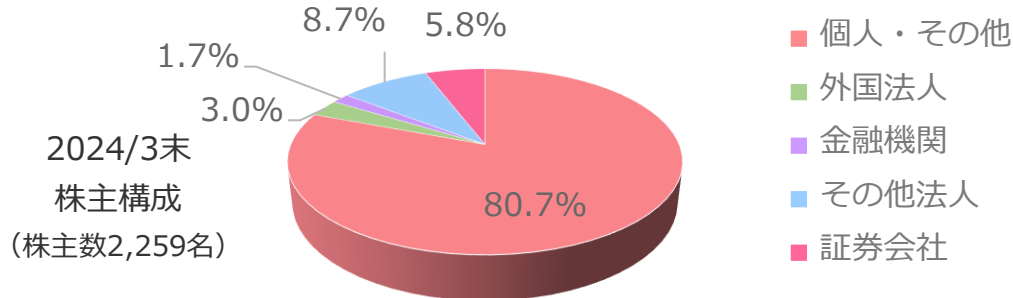
会社概要

商号:	リーダー電子株式会社 (スタンダード上場 6867) LEADER ELECTRONICS CORP.
設立:	1954年5月1日
事業内容:	電子計測器の研究開発・製造・販売
本社所在地:	神奈川県横浜市港北区綱島東2-6-33
資本金:	1,335百万円 (株主数 2,259名) 2024/3末
決算期:	3月31日
従業員数:	69名(単体)、136名(連結) 2024/3末
役員:	代表取締役社長 長尾 行造 他常勤取締役 3名、社外取締役 4名 (監査等委員会設置会社)
子会社:	海外販売子会社3社 (米国、中国、韓国) および Leader Electronics of Europe社(開発・製造・販売) (旧Phabrix社、2019年7月100%買収)



代表取締役社長 長尾 行造

1997年4月 通商産業省 (現経済産業省) 入省
 2001年4月 ブーズ・アレン・アンド・ハミルトン
 (現プライスウォーターハウスクーパース・ストラテジー) 入社
 2002年1月 コーポレイト・ディレクション入社
 2015年6月 当社取締役
 2017年6月 当社代表取締役社長 (現任)



企業理念

「計測を通じ、豊かな社会づくりに貢献する」

「創造と革新」

「知恵の結集と研鑽」



経営ビジョン

外部環境変化を先取りし、社会のイノベーションを積極的に促す

計測技術を基盤としつつも、モニタリング、ソリューションへと時代の要請に応じて計測の形態の進化にチャレンジする

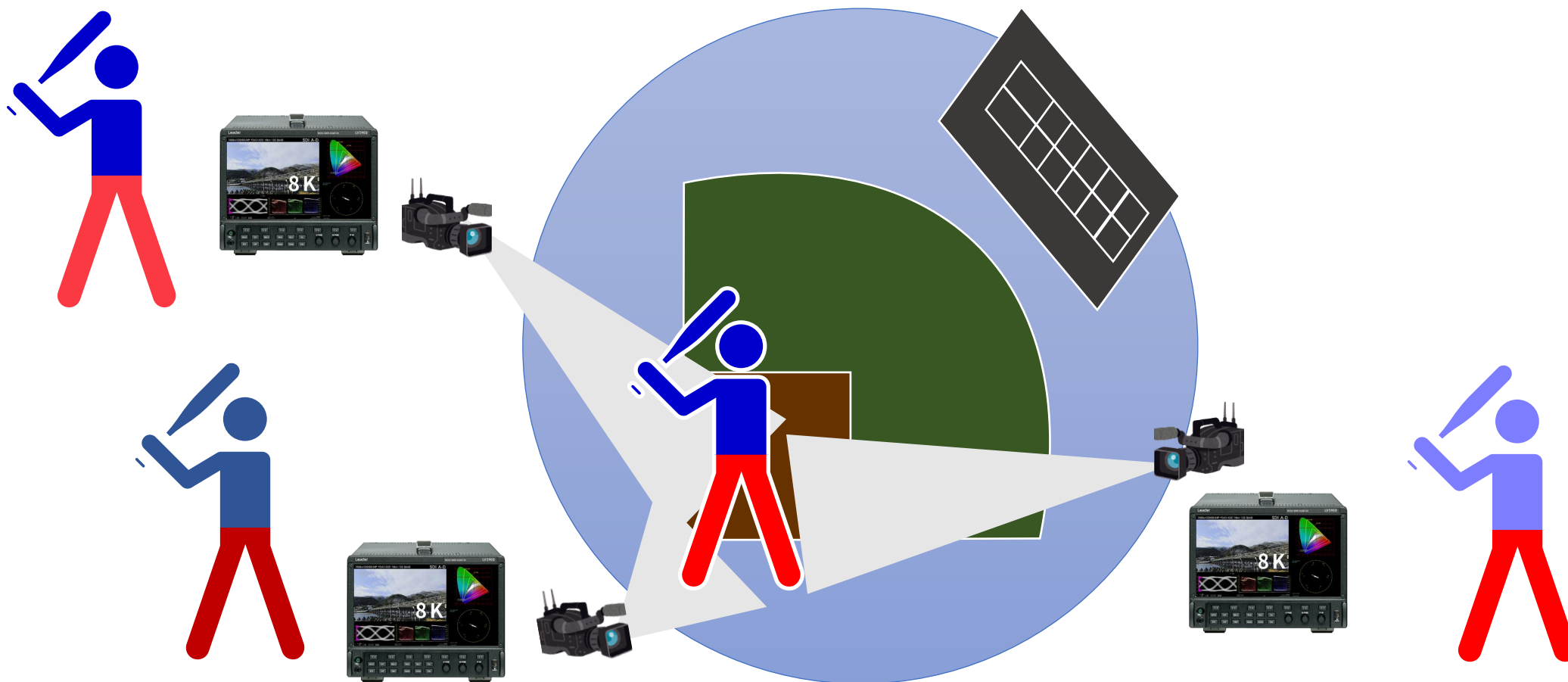
社内外の垣根を越えて知恵を結集し、スピーディな創造と革新を推進する

地域や属性の違いを建設的に受容し、「日本」の枠に束縛されない企業行動を実践する

取引先、従業員、株主の共栄を追求する

波形モニターの役割

複数のカメラ間でおこる色味の違いを調整するための装置



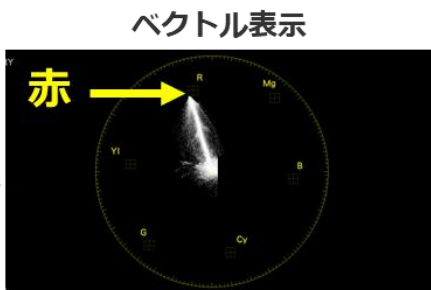
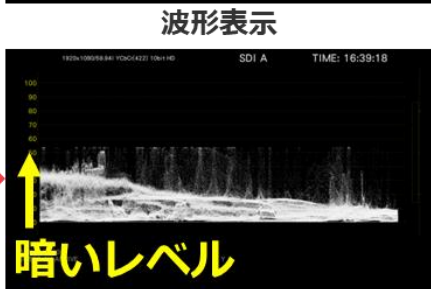
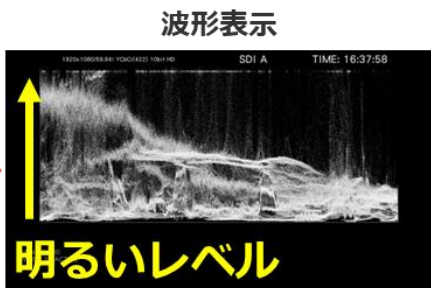
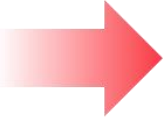
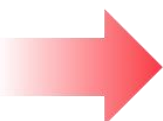
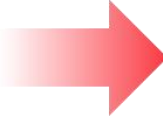
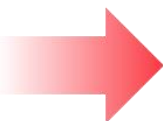
波形モニターの役割



弊社の波形モニターは
ビデオ信号のレベルや
色の測定がおこなえます

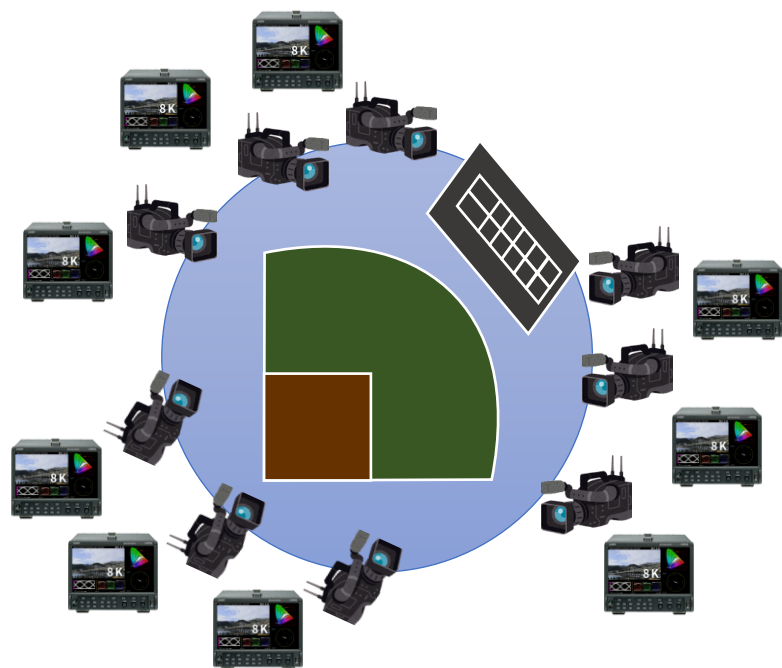


放送機材のビデオ信号

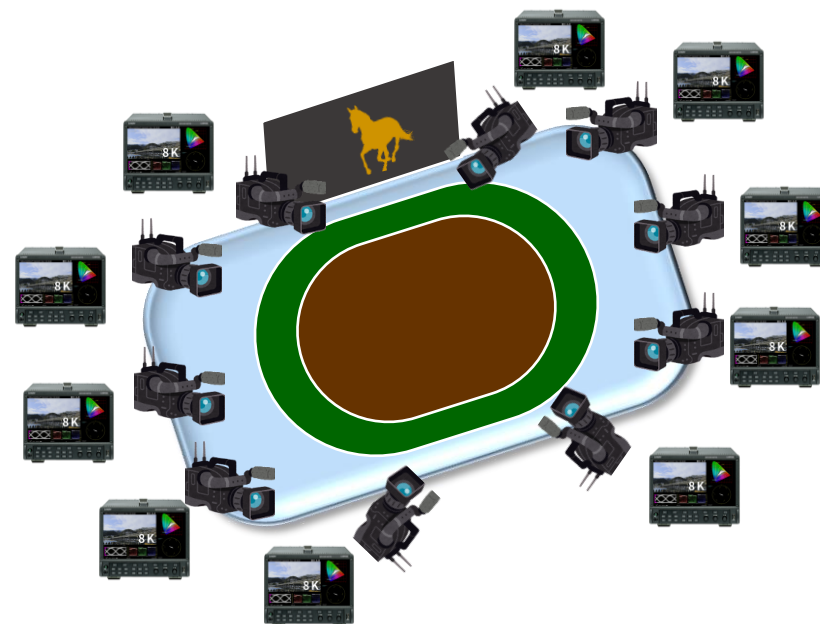


施設に設置されたカメラで映像コンテンツを制作

□ 野球スタジアム（海外）



□ 競馬場（日本）



WBCの中継でも活躍！

全世界をカバー

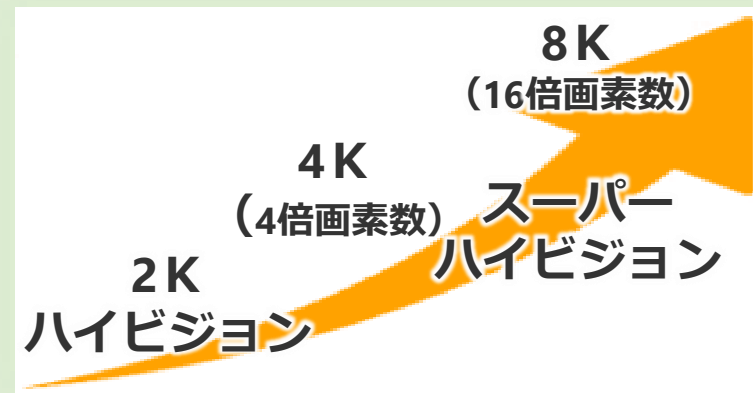
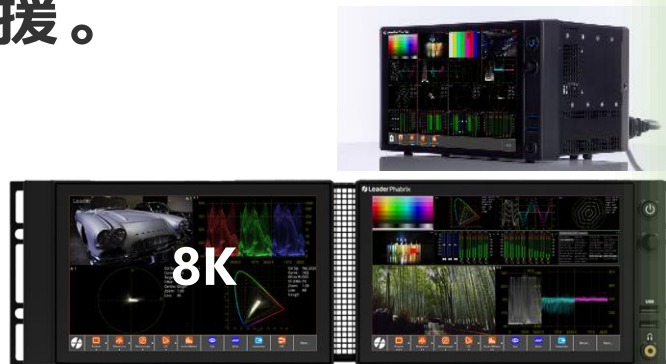
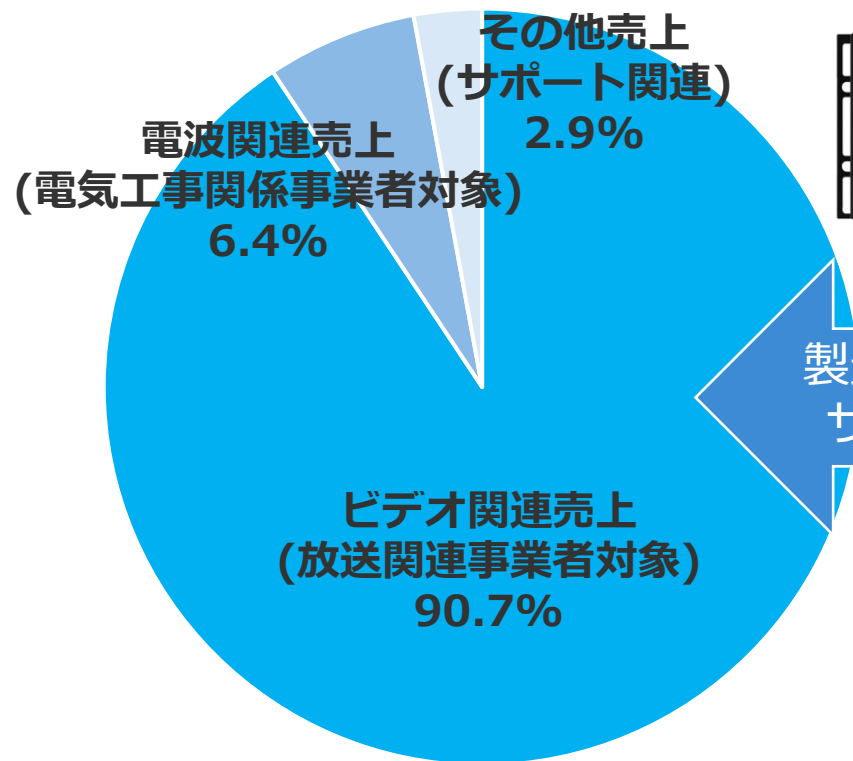


Leader

事業概要：世界シェア2位！

創業以来の「計測のプロフェッショナル」
として、幅広い産業を支援。

2024/3期2Q 売上高18億円



製造・販売
サポート

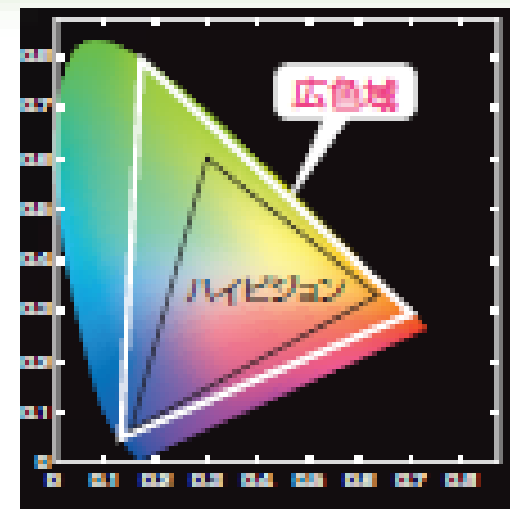
波形モニター



ラスタライザー



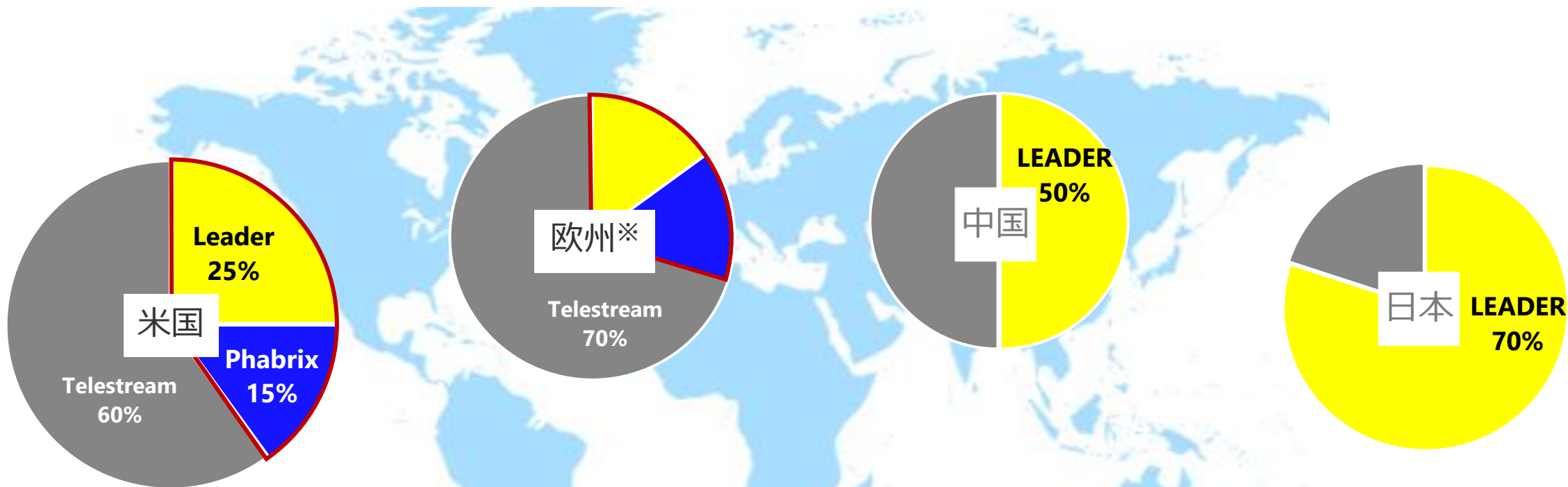
シグナルレベルメーター



Leader

競合状況と当社グローバルシェア

大きな環境の変化をチャンスと捉え、世界トップを狙う！



※欧州については中東・アフリカの数値除く

2025年3月期 第2四半期 決算



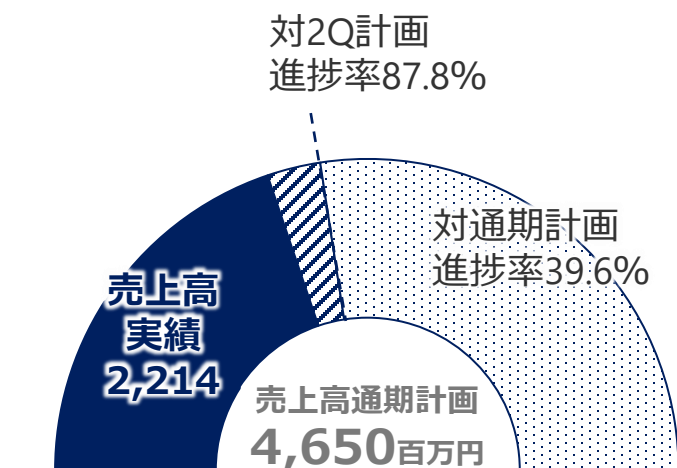
<https://www.leader.co.jp/>

- 追加開発による戦略製品の出荷遅延により買い控えが発生するなど苦戦。売上高、利益ともに期初計画から大きくビハインド。
- 戦略製品の引合いは旺盛。既に2Qより出荷を開始しており、需要の早期刈り取りにより上期の出遅れ分は下期で挽回を図る。

■ 売上高：1,843百万円（前期比▲16.8%）、経常損失▲291百万円

■ 財務：自己資本比率 75.1%と盤石の財務基盤維持（前期末比+3.0pt）

北米	新製品発売に向けた買い控えを含め、出荷遅延の影響大。マーケットはやや減速気味。
欧州	堅調。ゆるやかに成長。
インド・中東	巨大マーケットとして有望。シェア拡大を優先する営業戦略は芽が出始めている。
中国	冷え込みが続いており厳しい状況が継続。
東南アジア	徐々に投資が活発化する兆し。
日本	低位横ばいの状況が継続。



オリンピック・パラリンピック関連の需要はあったものの、戦略製品の出荷の遅れとそれに伴う買い控え等により販売が鈍化。

(単位：百万円)	2024年3月期 2Q 実績	構成 %	2025年3月期 2Q 実績	構成 %	前年同期比 %
売上高	2,214	100%	1,843	100%	△16.8%
売上総利益	1,466	66.2%	1,132	61.5%	△22.7%
販売費及び一般管理費	1,348	60.9%	1,371	74.4%	+1.7%
営業利益	117	5.3	△239	-	-
経常利益	216	9.8	△291	-	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	117	5.3	△294	-	-

営業利益: 為替差益 86百万円
 経常利益: 為替差損 △47百万円

2025年3月期 第2四半期 決算期初計画比

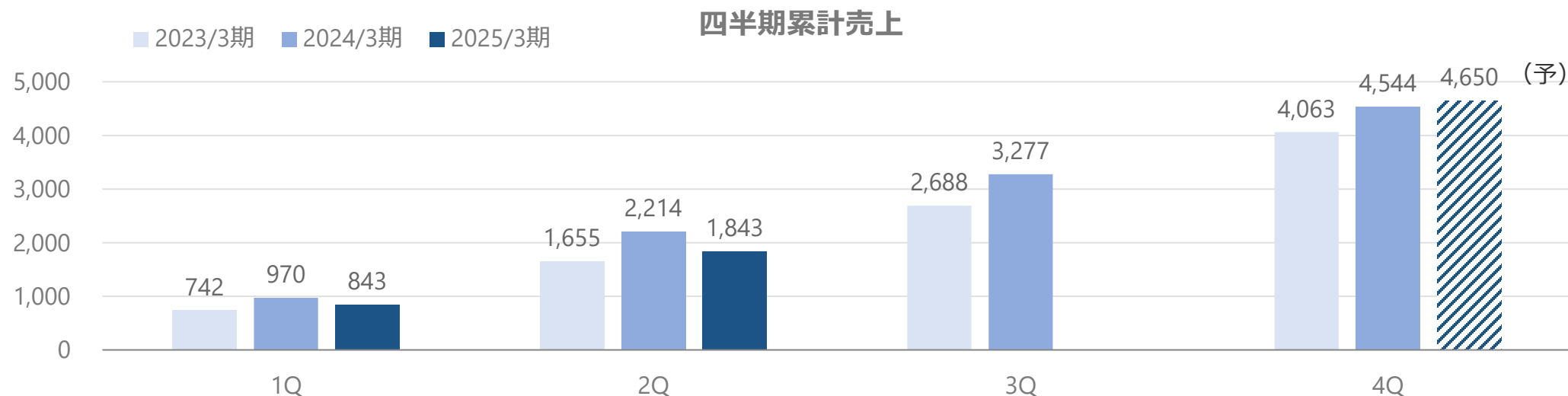
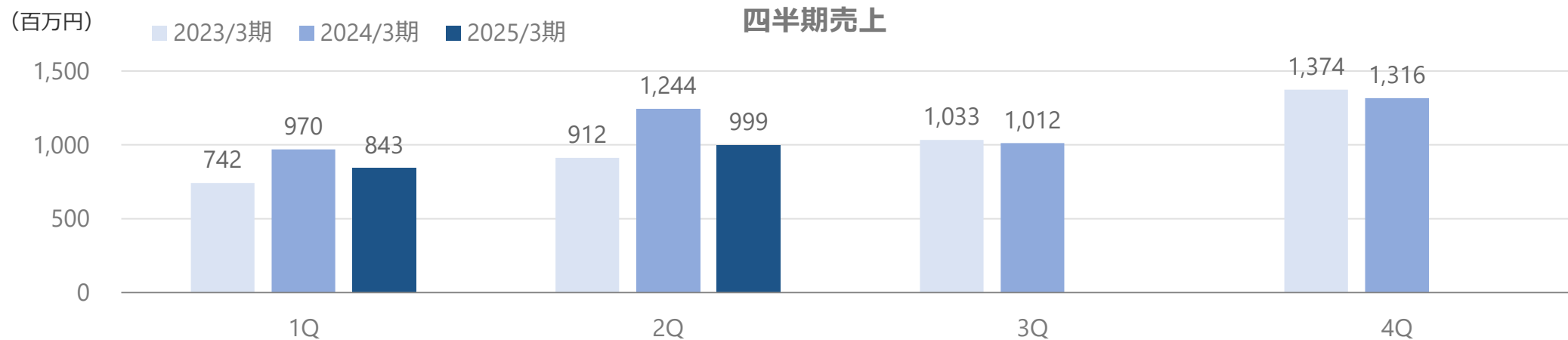
売上高の減収に加え、為替差損の発生により、経常損益、四半期純損益は損失が拡大。

(単位：百万円)

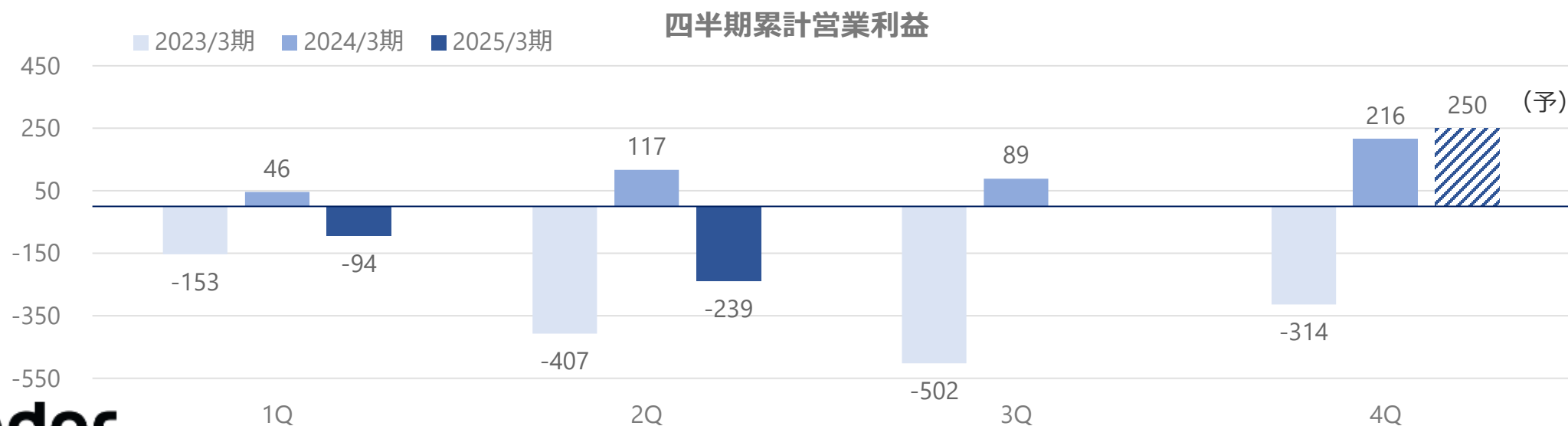
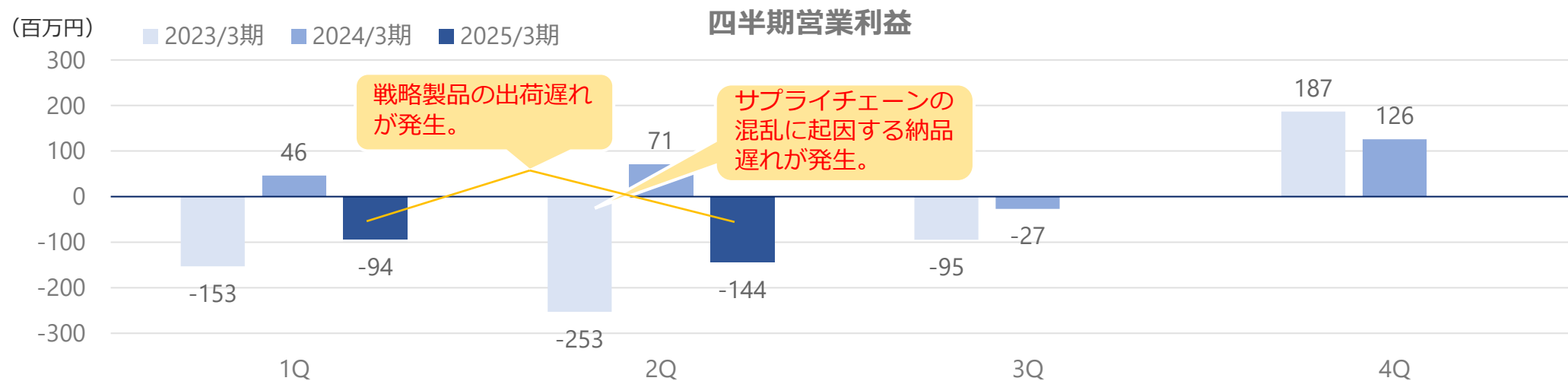
	2025年3月期 2Q 期初計画	2025年3月期 2Q 実績	期初計画比 金額	期初計画比 %
売上高	2,100	1,843	△256	△12.2%
営業利益	50	△239	△289	—
経常利益	50	△291	△341	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	40	△294	△334	—

為替差損
△47百万円

四半期業績推移（売上高）

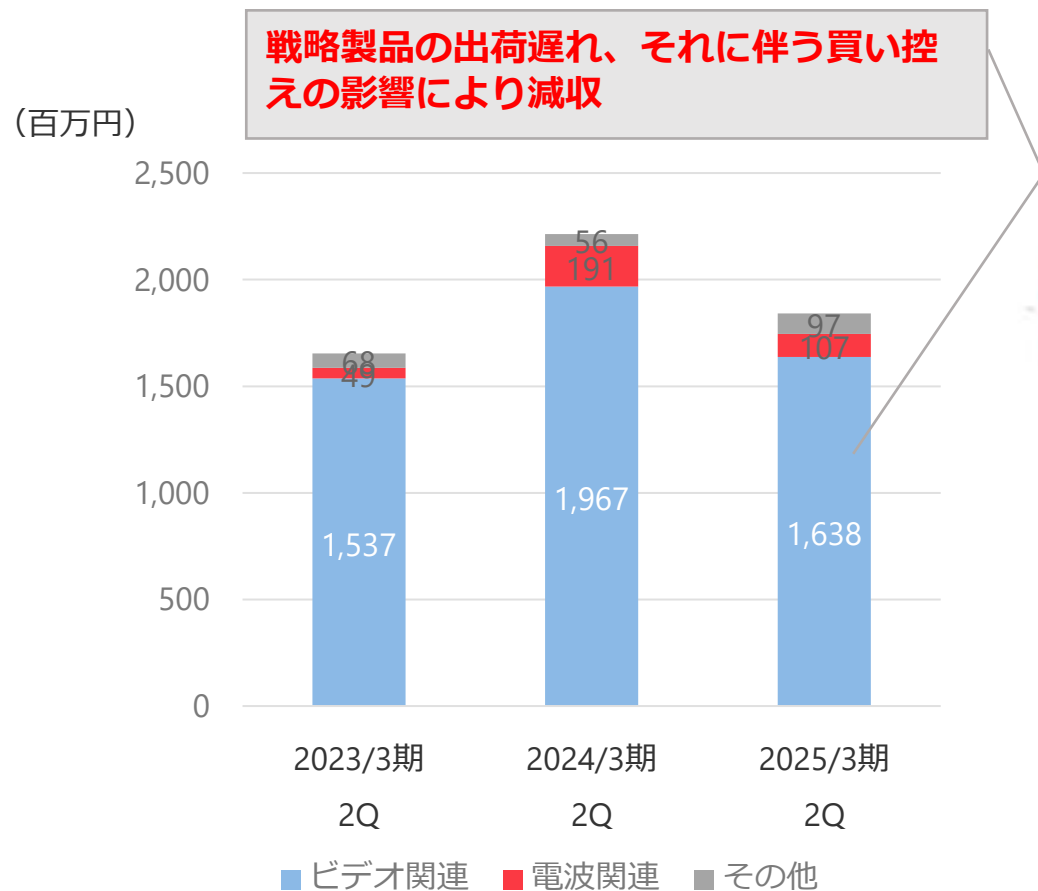


四半期業績推移（営業利益）

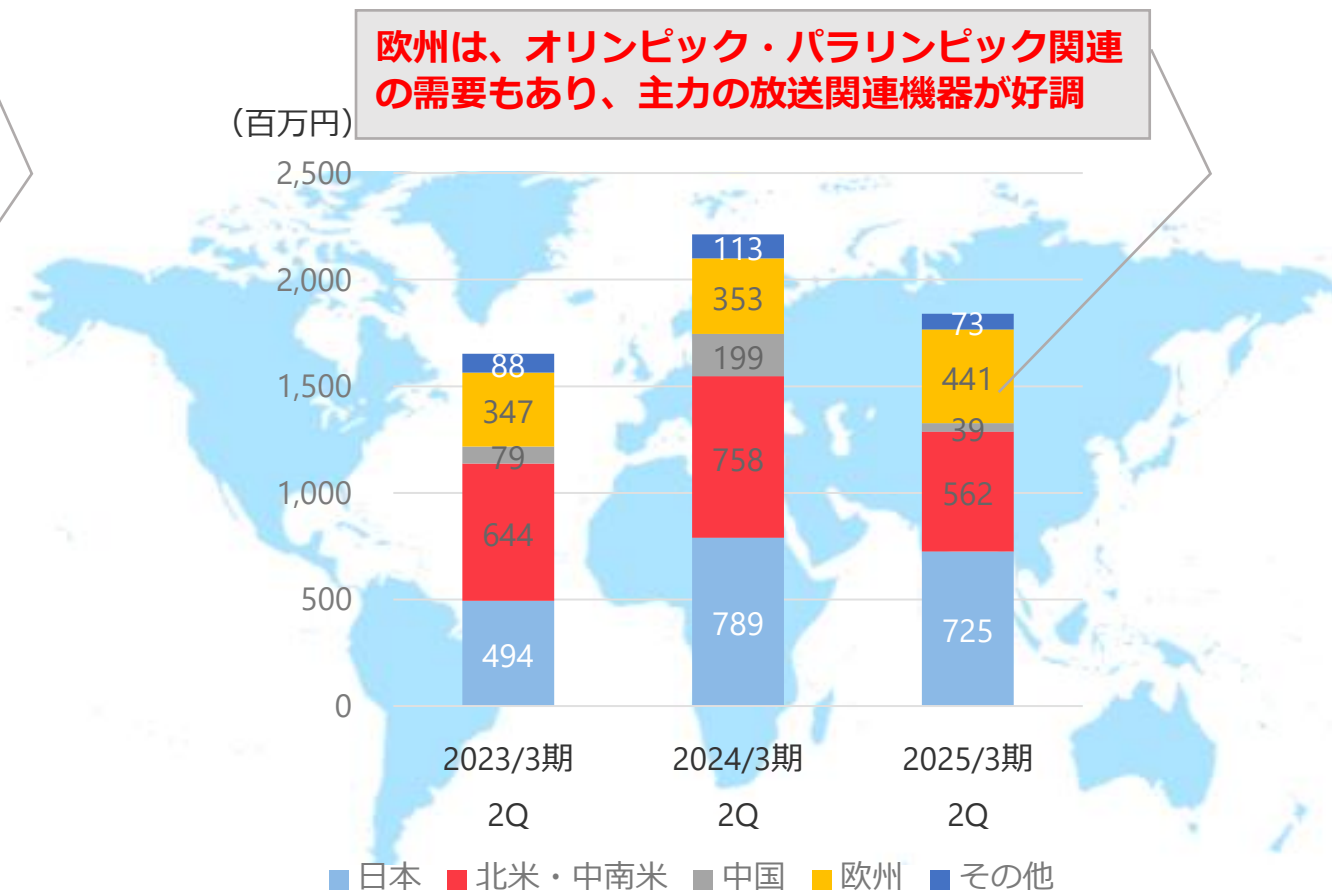


セグメント情報

商品別売上高



地域別売上高



単位:百万円	24年3月末	24年9月末
流動資産	3,388	3,176
現預金	1,464	1,243
受取手形、売掛金及び契約資産	1,046	634
商品及び製品	372	476
その他	505	821
固定資産	1,243	962
有形固定資産	482	470
無形固定資産	31	43
投資その他の資産	729	447
総資産	4,632	4,139
流動負債	765	517
買掛金	149	64
1年内返済予定の長期借入金	6	7
その他	609	446
固定負債	507	491
退職金に係る負債	333	349
その他	173	142
純資産	3,358	3,129
株主資本合計	3,469	3,125
その他包括利益累計等	▲110	4
負債純資産合計	4,632	4,139

資本コストをより意識した経営を重要な経営課題と認識

既存事業（バリュービジネス）でのシェア向上と新規事業（グロースビジネス）の収益化という自社経営資源による成長及びM&A等を通じた外部資源を活用した成長によりROEを改善することを目指す一方、自己株取得等の施策を通じて資本コストを低減することにより、企業価値を向上し、資本コストを安定的に上回るROEの達成を目指す。

主な増減要因

- 前渡金：+380百万円
- 受取手形、売掛金及び契約資産：△412百万円
- 長期貸付金：△240百万円
- 支払手形及び買掛金：△85百万円

自己資本比率75.1%（前期末比+3.0pt）

2025年3月期 通期計画



<https://www.leader.co.jp/>

外部環境認識と事業方針

北米、欧州において圧倒的な顧客満足度No.1を実現しトップシェア達成へ。

欧米のシェア拡大に向け経営資源投下
製品開発、マーケティング活動加速



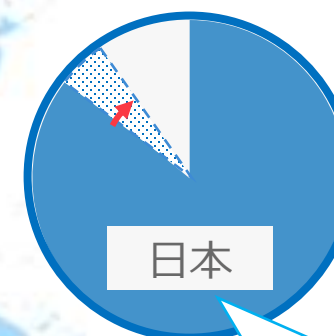
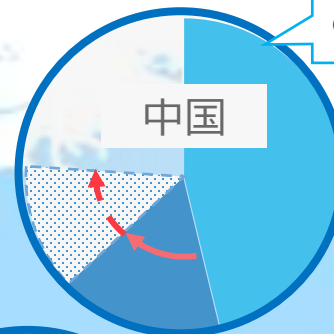
設備投資意欲好調を維持と予測。トップシェア奪取の環境が整ったと認識。CSを武器にマーケティング強化。

スポーツビジネスへの設備投資が活発化。マーケット環境は徐々に回復と予測。シェア拡大に向けマーケティング強化。

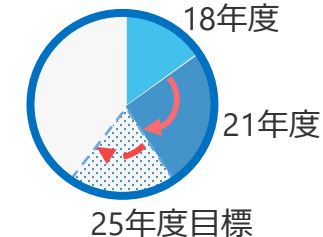
スポーツ中継など今後の拡大余地大きい。シェア獲得を優先した営業を展開。大型案件あり。確実に目が出始めている。

市場全体の低調な投資意欲が継続することを想定

引き続き厳しい環境の継続を想定。



推定シェア



2025年3月期通期業績計画

- IP化、リモートプロダクション化に対応するべく積極的な開発投資を継続。
- 北米、欧州におけるシェアトップ実現に向け開発、マーケティングの一層の強化。
- 今後成長が見込まれるインド・中東へのマーケティング強化。シェア獲得を優先。
- SFR-fitの国内におけるデファクト化と海外展開の足場づくり。
- **コストコントロールによる利益率改善（広告宣伝費、出張費等の抜本の見直し等）**

(単位：百万円)	2024年3月期 実績	構成 %	2025年3月期 計画	構成 %	前年同期比 %
売上高	4,544	100%	4,650	100%	+2.3%
営業利益	216	4.8%	250	5.4%	+15.5%
経常利益	295	6.5%	250	5.4%	△15.3%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	137	3.0%	190	4.1%	+37.8%

➤バックカメラシステム装着義務化*が後押し

MTF Measurement Software
SFR-Fit

車載カメラ向け 解像度測定ソフトウェア

サプライチェーンを含めたビジネスモデル構築中

完成車メーカーと車載カメラ評価の仕組みづくり実施

販売拡大戦略

最終段階

2024年度

➤ 日本国内におけるデファクトスタンダード化

- 1.日本国内完成車メーカーの横展開
- 2.日本国内完成車メーカー向けサプライヤー（カメラメーカー等）への縦展開

順調

➤ 海外展開（まずは北米）に向けた足場づくり

2025年度以降

- 海外市場での顧客獲得
- 自動車以外の産業に展開



後退時車両直後確認装置（バックカメラシステム）装着義務化：2024年11月製造分から適用

【戦略製品】

Leader

LV5600W / LV7600W / LT4670

波形モニター

ラスタライザー

シンクジェネレーター

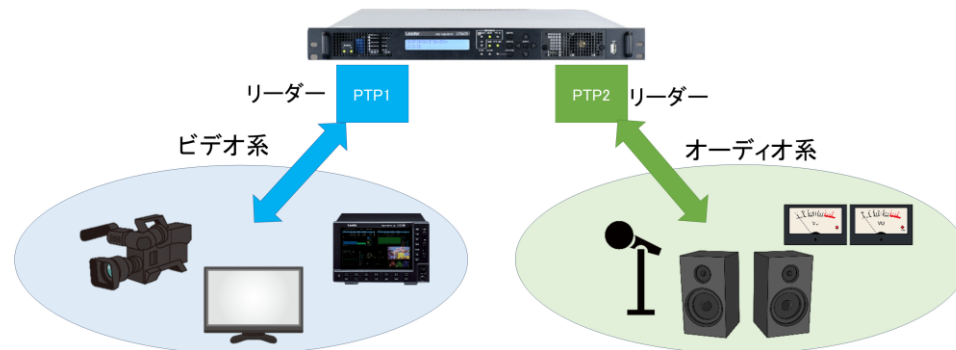
➤ IP化、リモートプロダクション化 対応機器

波形モニター ラスタライザー
LV5600W / LV7600W

2Q(7-9月期)に
出荷開始済み

1Q(4-6月期)に
出荷開始済み

●独立したPTPネットワーク使用例



シンクジェネレーター
LT4670

NEW



- ・今後加速するIP化と、IP化の特性を生かしたリモートプロダクション制作をWeb-RTCにてサポート。映像制作を格段に効率化。
- ・HDR(High Dynamic Range)対応TVへの映像提供を行う放送局が、適正なHDR映像を制作可能にする3D-LUT機能をLV5600W/LV7600Wへ追加搭載。
- ・マルチ言語の字幕DATA確認機能を追加搭載。欧州市場対応強化へ。

- ・放送専用機器の集合体に必要不可欠、且つシステムの心臓部にあたる同期信号発生器をアップデート。
- ・IP化・リモートプロダクション設備に必要な同期信号「PTP」を搭載。
- ・4K化・IP化を積極推進する放送業界向けに4K-SDI・4K-IP信号発生オプションを市場投入。

高い顧客満足度を実現

既存製品のビッグマイナー
チェンジを実施

➤ IBC2024※にてBest of Showを受賞

- 4K・4入力波形モニター
- SDIとIPの同時モニタリング
- デュアルディスプレイ対応
- noVNC対応

LeaderPhabrixブランドについて



放送局業界で使われる波形モニターおよびシンクジェネレーターの新製品ブランドとして、この度「LeaderPhabrix」を立ち上げました。業界をリードするテクノロジーを新しい最先端のプラットフォームに統合することで、革新的な製品をお客様に提供するという使命において大胆な一歩を踏み出します。

【LPX500特長】

- 中継車などのスペースファクターを重視する環境に適したコンパクトなサイズ
- 4 x 12G-SDIの入力、同時表示に対応し、さらにIPとSDIのハイブリッドな環境でIPおよびSDIの同時表示が可能
- 最大100G-IP/12G-SDIのオーディオ&ビデオ信号出力と解析が可能
- 拡張モニター（Extend Monitor）を追加可能



※ IBC2024 : International Broadcasting Convention
欧州最大の国際放送機器展

【戦略製品】

Leader

LF995

日本国内向け電界強度計

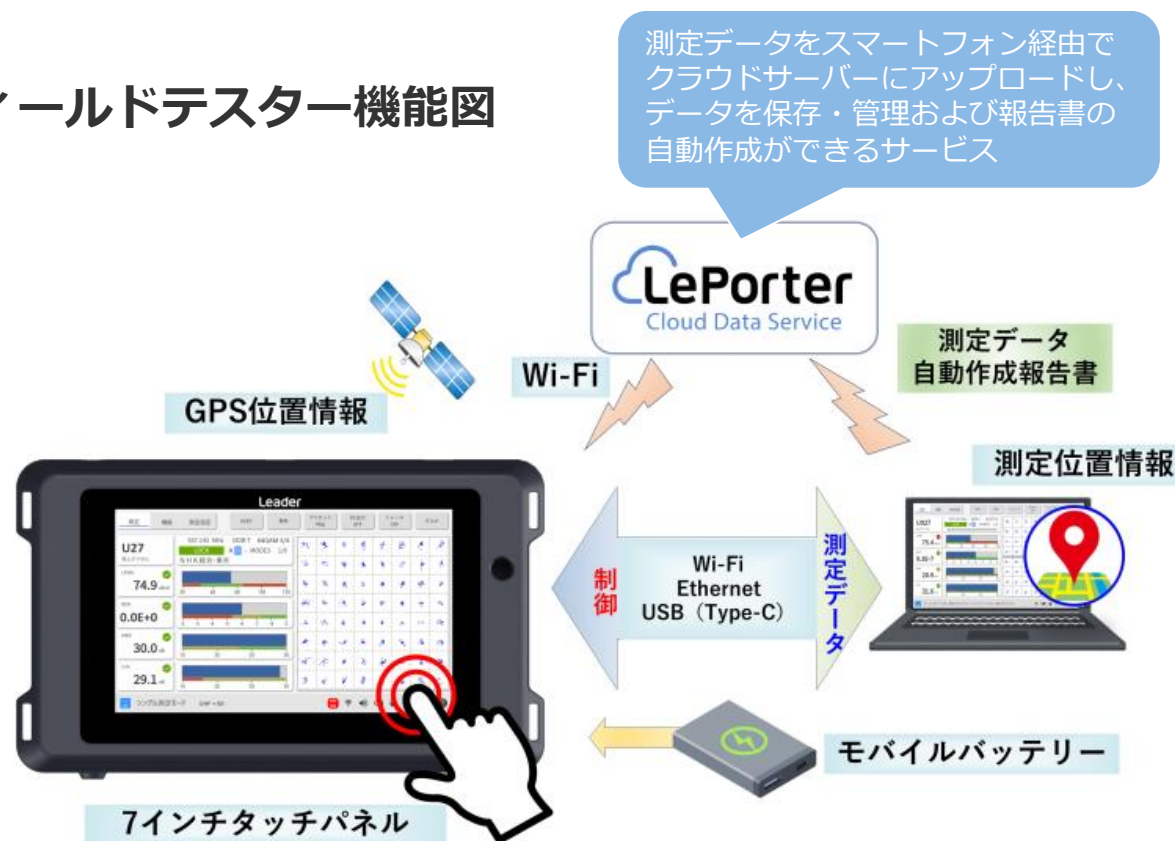
➤ 日本国内マーケット戦略商品

フィールドテスター
LF995
NEW



LF995 RFフィールドテスター機能図

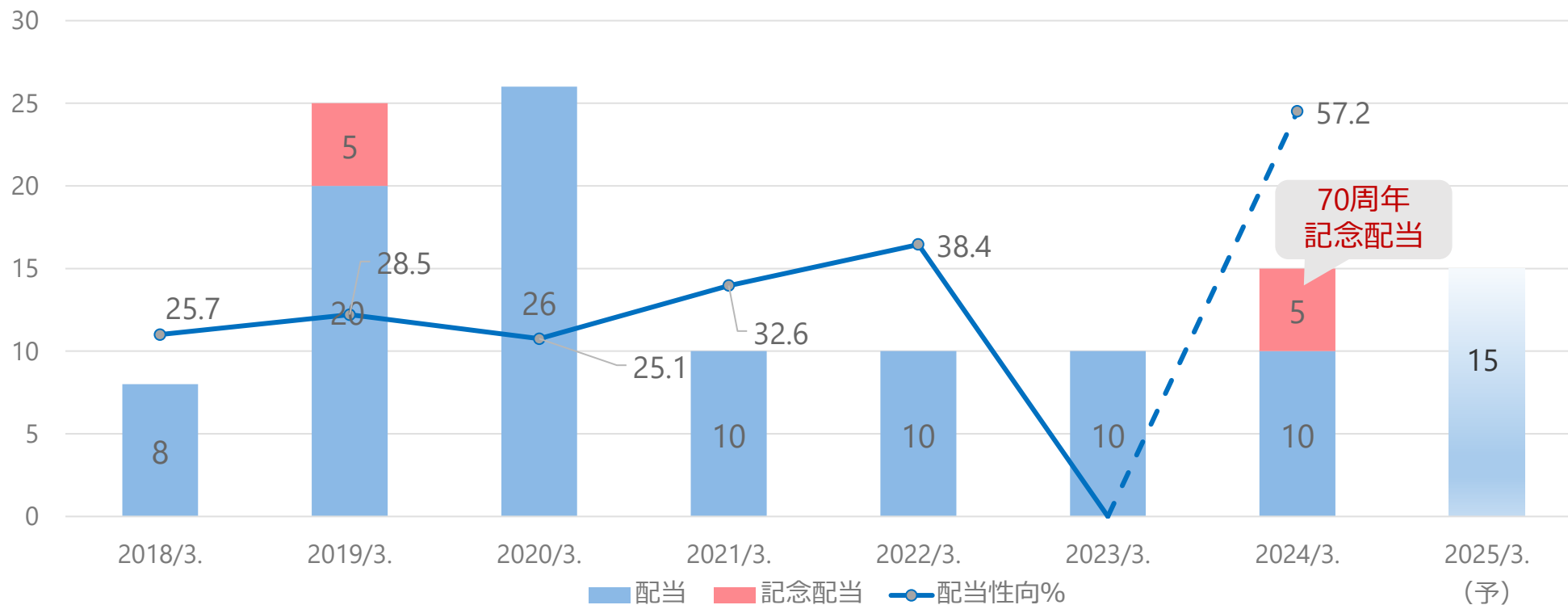
- ・地上波、CATV、衛星のデジタル放送に対応したRFフィールドテスター。
- ・遠隔アクセス対応。中継局設備の監視に最適且つ格段に作業性効率アップ。
- ・位置情報と測定データを自動でクラウドへアップロードを実現し報告書自動作成する事で業務効率が向上。



株主還元

企業成長投資と株主還元のバランス重視。安定的な配当を継続。

(配当：円)



R&D指針 更に積極的な投資を実施

激動の環境変化に迅速に対応すべく、積極的にR&Dへ投資

グループR&D投資額

(百万円)

